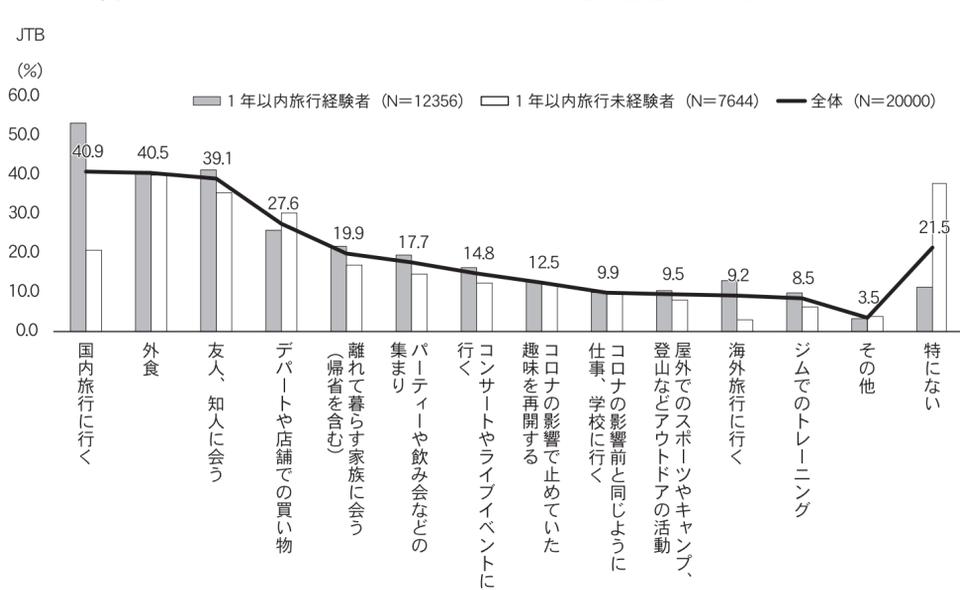


JTB JTB総合研究所

新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化および旅行再開に向けての意識調査

図1 外出自粛や渡航制限が解除になったらやりたいこと(上位三つを合算) (複数回答)



JTBとJTB総合研究所は、「新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化および旅行再開に向けての意識調査(2020)」の結果を共同でまとめ、5月28日に発表した。JTBの調査で、外出自粛要請や渡航制限が解除され、自由に外出や旅行ができるようになったら、何をまずやりたいかを聞いたところ、トップは「国内旅行(40.9%)」だった。

JTBの調査は、4月27～29日に全国に居住する15～79歳の男女を対象に実施。外出自粛や渡航制限が解除になったらやりたいことは、「友人、知人に会う(39.1%)」、「外食(40.5%)」が上位3つを占めた。国内旅行は1回、過去1年間に1回以上、国内外の旅行を経験した人が53.3%、旅行を経験しない人が20.8%と大きな差があった。新型コロナウイルス前と今を比較して、自分の考え方がどんな点で変化したと感じたか、選択肢から選んでもらった。図2。最も多かったのは「対面や直接のコミュニケーションは大切だ(29.8%)」で、次に「外出自粛が長引く、国内旅行をしたい」という意識が以前より高まった(23.2%)が続いた。国内旅行をした

外出自粛の解除後、やりたいのは「国内旅行」

という意識が高まった。旅行を予定、検討している割合は、国内旅行、海外旅行ともに女性29歳以下(48.1%)と5月調査で全体平均より10ポイント(44.1%)では微減となつた。一方、「外出自粛が長引く、旅行に対する関心が薄れた(7.3%)」では10ポイント以上5%は、国内旅行、海外旅行とも女性60歳以上(22%)は前月と同程度となつた。図4。特に国内旅行や外出を再開するのを検討している割合は、2月調査(35.2%)から5月調査(23.7%)の間で効果が減少(11.5%)、大きく減少。事態の深刻さが増すにつれ、外出自粛の解除による意識の高まりが鈍り、先の出発前(33.9%)が上位に上り、旅行の計画を立てることができない様子が見られる。終息宣言と答える割合が高い人に国内旅行の行き先が高い傾向があった。JTB総合研究所では、感染拡大から現在までの旅行に対する意識の変化と年内の旅行について5月毎の定点調査の結果を発表した。2020年中の旅行先を居住地と同じ地方(「観光、レジャー」や出張など)の割合は、前月調査(29.8%)から5月調査(23.7%)の間で減少傾向が見られる。また、居住地別に5月の調査の結果を発表した。2020年中の旅行先を居住地と同じ地方(「観光、レジャー」や出張など)の割合は、前月調査(29.8%)から5月調査(23.7%)の間で減少傾向が見られる。また、居住地別に5月の調査の結果を発表した。

図2 新型コロナ影響前と比較した、自分の考え方の変化 (複数回答)

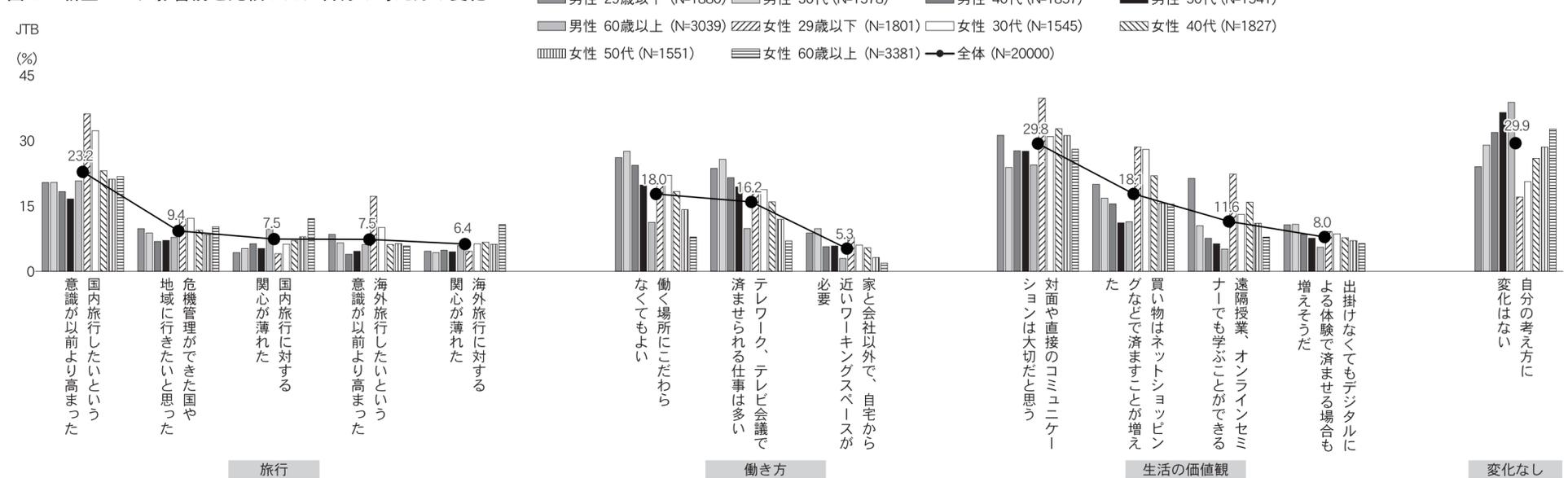


図3 どのような状況になれば旅行や外出をするか (複数回答)

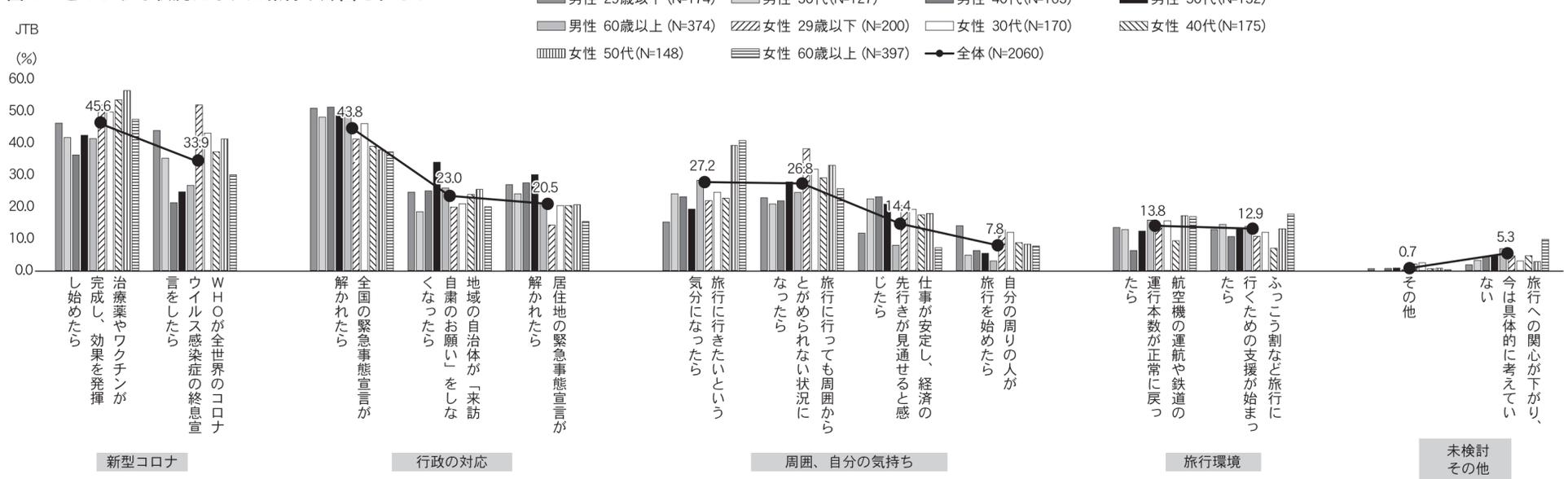


図4 2020年中の旅行意向<2~5月調査>

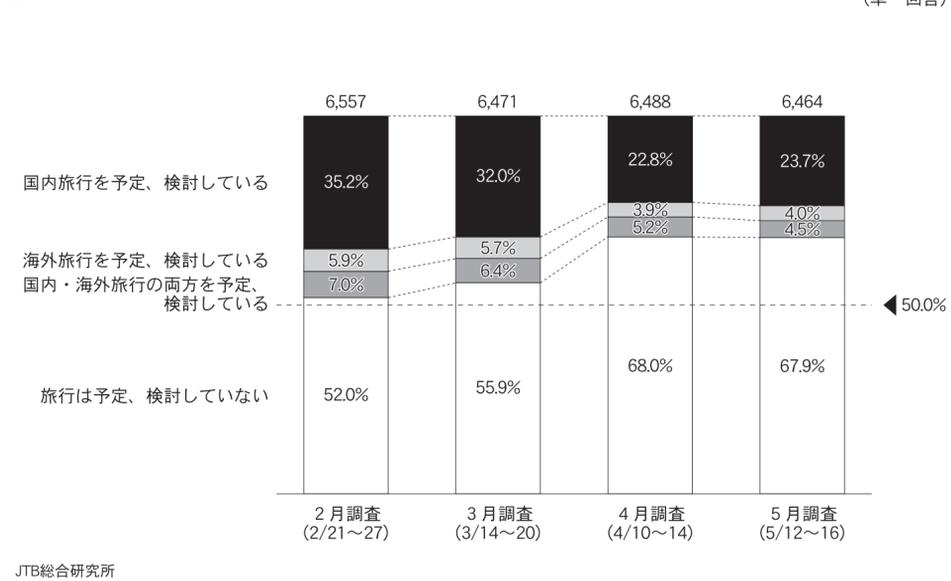


図5 2020年中に予定、検討している国内旅行の行き先<2~5月調査>

